

「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」

- ・(ひ) 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- ・(や) やさしく 思いやりのある子
- ・(く) くじけず 最後までがんばる子
- ・(た) たくましく 健康な子



<http://www.hyakuta.m-alps.ed.jp/>

学校探検

いつも学んでいる教室を離れ、一年生が自分たちで学習をしています。職員室でPCを見つけてメモをしている子も・・・ワクワク、キョロキョロ、きっとたくさんの発見をしたことなのでしょうね。これから絵をかくて発表していくようです。首を長くして待っているのですが、今のところ校長室に来てくれる子はいません。さて、一年生は一人でも興味をもって校長室を訪れてくれるでしょうか。



病児保育について

以前、市の子育て支援課から配布しましたチラシの通り、南アルプス市には病児・病後児保育の制度があります。これは、お子さんが病気やけがの際、仕事等により自宅で保育できない場合や集団保育が困難な場合に、専用の保育室で一時的に保育を実施するというものです。本校の校医であります丹 哲士先生からこの中の病児保育について改めてご紹介をいただきましたので、本日、別紙にてお便りを配布させていただきます。保護者の見学もあるようですので、関心を持たれた皆様は直接病児保育室にお問い合わせください。若干ですが、利用案内のパンフレットが学校にもあります。



教育実習生が来ます

5月24日から、竹山こはるさんが本校に教育実習生として来ます。竹山さんは本校の卒業生で、山梨県の教職を目指しているやる気満々の若者です。18日間という限られた期間ではありますが、これからの山梨教育のため、未来ある子供たちのため、一つでも多くのことを学び取ってくれることを期待しております。担当クラスは4年1組ですが、ほかの学級の授業を参観したり、活動に参加したりしながら、より多くの児童との触れ合いがあるかと思えます。なお、このような時節ですので、日常における大学での健康チェックに加え、2週間以上の間、百々の実家にて自宅待機と健康観察を続けていただいたうえで教育実習に臨んでもらいます。



重ねてのお願いです

4月より全国各地で、また山梨県においても新型コロナウイルスの感染者が増えてきています。変異株におきましては、子供への感染や家族間での感染も多くみられるようです。本人はもちろん、ご家族がPCR等の検査を受ける（児童が接触者となる可能性がある）場合には、検査を受けることが決まった時点で（結果が出てからではなく）ご連絡ください。何度も同じお願いを繰り返す申し訳ありませんが、よろしくお願いいたします。

判断する力

現在は、マニュアル時代だと言われています。また、現代っ子は指示待ち世代だとも言われています。イソップ物語に、「ロバを売る親子」という次のような話があります。

昔、ある親子がロバを売りに街に出かけました。親子はロバに手綱をつけて引いて歩いていました。通りがかりの人に「せっかくロバを連れているだから乗ればいいのに」と言われたので、子供をロバに乗せて歩いていきました。

しばらく行くとまた別の人から「親を歩かせるとは何て親不孝な子供だ」と言ったので、子供を下ろして親がロバに乗りました。

またしばらく行くと、また別の人から「子供を歩かせて親だけが乗るなんて、なんてひどい親だ。一緒に乗ればいいのに」と言われたので、今度は二人でロバに乗っていきました。

さらに行くと、また別の人から「小さいロバに二人が乗るなんてかわいそう」と言うので、それもそうだと思い、親子はロバの両足を一本の棒にくくりつけて担いで歩きました。

やっと町に近づき、橋を渡ろうとしたところ、担がれたロバが苦しくて暴れだし、川に落ちて死んでしまいました。

結局、親子は苦労しただけで、一文の利益も得られませんでした。



皆さんは、この親子をどう思いますか。ロバを売るために五つの方法でロバを運びます。とてもやさしい親子だと思いますが、残念なことに自分で考えずに、人に言われるがままに、次々と方法を変えていきます。その結果、ロバを売るという目的は達成できず、何の利益も得られませんでした。私たちは何かを実行していくときに、たくさんの判断を迫られます。困ったときには人の話に耳を傾けることは大切ですが、**最後は自分の頭でしっかり考えて判断しなければなりません**。物事を達成させるためには「チャンス」に恵まれることだけでなく、正しい「チョイス」も必要となります。

東日本大震災の折、「津波てんでんこ」に基づく『釜石の奇跡』。小中学生の素晴らしい判断のもとでの避難により、たくさんの命が助かりました。



ともすると、子供に考えさせる前に大人が手や口を出してしまう。時間ももたないなので、細かいところまで指示を出してしまう。あげくは、子供たちの作業を大人が仕上げてしまう・・・そんなことの積み重ねから、やがて子供たちは思考をやめ、言われるまま動き、達成感のないままに結果だけが求められていく・・・指示待ち人間、マニュアル人間となっていくのです。でもこれは決して子供たちの責任ではなく、良かれと思い、そう働きかけている私たち大人の責任です。

子供を育てることは、的確な指示だけでなく、根気や忍耐も必要となります。失敗しても回り道をして、子供自身に考えさせ、実行させ、そして前向きに評価し、達成感や充実感を味わわせたいものです。必ず、自信や自己肯定感につながることでしょう。結果や能率性が重視される昨今ですが、子供たちの真の成長のため、時々立ち止まったり自らの指導や支援を振り返ったりしていきましょう。※学校では新型コロナに伴う学習活動の実施判断に、日々頭を悩ませているところです。

